

地域の絆と災害に強い地域づくり

---

**住民同士の助け合い、支え合いに向けて**

島 根 県

# 1 山陰地方初の大雨特別警報発表

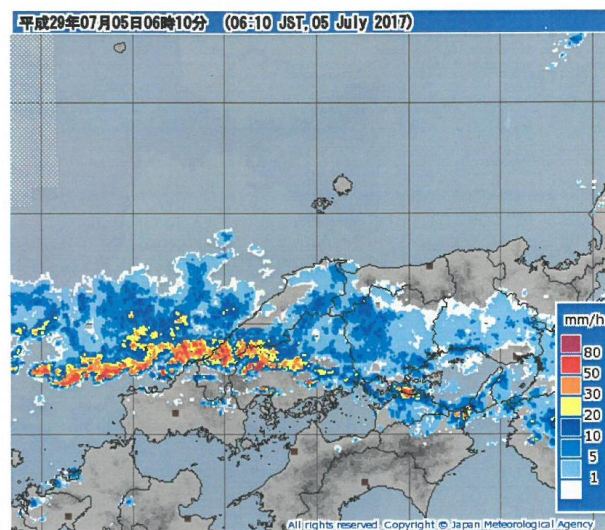
## 【7月5日 5:55 大雨特別警報発表】

※2013年（平成25年）8月30日運用開始 数十年に一度の降水量が予想される場合などに発表

「重大な危険が差し迫った異常事態 直ちに命を守る行動を」



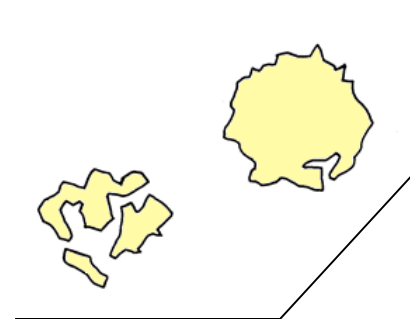
対象市町村：浜田市、益田市、津和野町、邑南町



気象レーダー

日本海の梅雨前線が南下し、山陰沿岸に停滞  
前線に向かって温かく湿った空気が流れ込み活動が非常に活発となった  
島根県では線状降水帯が形成され、非常に激しい雨となった

浜田市金城町波佐<sup>はぎ</sup>で 1時間雨量82ミリ 24時間雨量369.5ミリ（共に観測史上最大）



浜田市内の被災箇所

**【被害状況】**

人的被害	軽傷	1名
住家被害	半壊	1棟
	一部損壊	4棟
	床上浸水	9棟
	床下浸水	55棟



**【避難指示・勧告】** (7月5日午後2時現在)

浜田市	7,350世帯	15,699人
益田市	848世帯	1,943人
邑南町	2,959世帯	6,513人

## 2 過去の集中豪雨被害

### 【昭和47年】

梅雨前線による豪雨 浜田市を中心に連続雨量677ミリを記録  
死者・行方不明者28名、負傷者79名

### 【昭和58年】

梅雨前線による豪雨 県西部の<sup>やさか</sup>弥栄村（現浜田市弥栄町）で  
連続雨量555ミリを記録 死者・行方不明者107名、負傷者159名

### 【昭和63年】

梅雨前線による豪雨 県西部の浜田市で連続雨量394ミリを記録  
死者・行方不明者6名、負傷者29名

### 【平成3年】

台風19号による風水害  
死者1名、負傷者102名

### 【平成18年】

梅雨前線による豪雨 県東部を中心に被害  
死者・行方不明者5名、負傷者12名



昭和58年災害時の三隅川

近年では・・・

**【平成25年7月28日】**

島根、山口県境で豪雨 津和野町<sup>なよし</sup>名賀の1時間雨量が  
午前6時台に92ミリ、同3～11時に411ミリを記録

気象庁は特別警報の運用開始に先駆けて  
「直ちに命を守る行動を」と呼び掛けた  
行方不明者1名



<sup>なよし</sup>  
被災した津和野町名賀地区



路面が崩れた津和野町内の県道萩津和野線

**このように、何度も集中豪雨に見舞われている**

# 3 自治体によるハード・ソフト対策

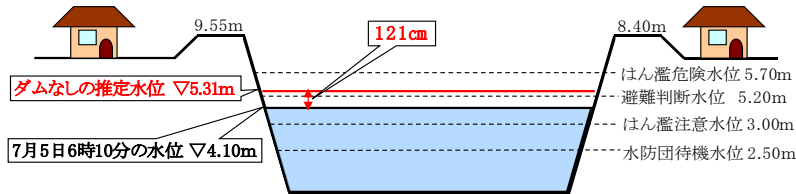
## (1) 治水対策の推進（県西部三隅川の事例）

三隅川は、昭和47年の豪雨により甚大な被害を受けたことから、昭和48年度にダム事業に着手  
昭和58年の豪雨による三隅川の氾濫を経て、計画を一部見直し、平成2年におんべ御部ダムが完成

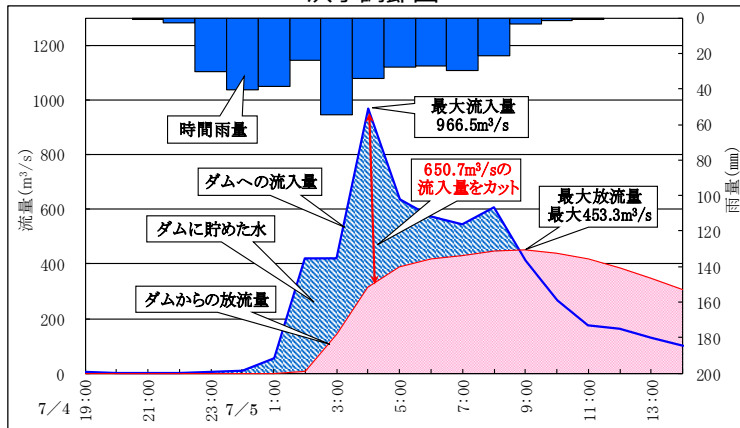
### ① ダムによる洪水調節

御部ダム上流域では降り始め（7月3日17時）からの総雨量が7月5日11時までに370mmに達した  
この出水（最大966.5 $\text{m}^3/\text{s}$ の流入）に対し、650.7 $\text{m}^3/\text{s}$ の流量をダムの洪水調節により低減し、下流の  
三隅大橋水位局では、ダムがなかった場合に比べ121cmの水位低下ができたものと考えられる

三隅水位局付近断面図（島根県浜田市三隅町）



洪水調節図



洪水調節時の様子（7月5日撮影）

## ②ダムによる流木の流出阻止 おんべ（御部ダムへの流入量 約14,400m<sup>3</sup>）

多くの流木がダムに流入したが、ダム下流への流出を防いだ



上流から御部ダム方向



御部ダムから上流方向



ダム湖内から上流方向



さらに上流方向

## (2) 市町村と連携した対策の強化 (津和野町H25.7豪雨後の対応)

### ① 県・町合同防災訓練

- ・ 津和野町総合防災訓練 (市町村防災研修)
- ・ 平成26年1月14日開催
- ・ 発生当時の時間経過をふまえ、訓練のなかで振り返り



図上訓練の様子

7月28日から的大雨(津和野町)		
28日	4:20	○ 大雨(浸水害)・洪水警報(津和野町) = 警戒体制
	5:30	○ 松江地方気象台に状況確認「実況 80mm/h 今後50mm/h」
	5:57	○ 府県気象情報(第1号)
	6:30	○ 津和野川避難判断水位到達
	6:33	○ 大雨(土砂災・浸水害)・洪水警報
	6:50	○ 津和野町「避難勧告」発令
	6:55	○ 土砂災害警戒情報 (津和野町)
	7:04	○ 津和野川氾濫危険水位到達
	7:27	○ 府県気象情報 = 災害対策本部自動設置(第3動員体制)「80mm/h 200mm/24時間」
	7:55	○ 松江地方気象台に状況確認「現在の降雨量は200mmを超えている。予想は80mm/h」
	9:30	○ 鳥根県災害対策本部会議 開催
	9:55	○ 鳥根県記録的短時間大雨情報第1号(津和野町付近)
	10:30	○ 津和野町より孤立地区発生電話連絡 自衛隊の派遣要請(町一県)
	10:41	○ 自衛隊災害派遣要請(県一自衛隊)
29日	11:21	○ 府県気象情報(第3報)「昨年度の九州北部豪雨災害に匹敵する大雨。鳥根県では近年に状況」
	17:00	○ 第2回鳥根県災害対策本部会議 開催
	17:30	○ 避難勧告 解除
	17:45~	○ 防災航空隊ヘリにより孤立地区から合計6名を救出(~18:20)
	18:00	○ 出雲駐屯地部隊が津和野町現地対策本部に到着(なごみの里)
	18:32	○ 大雨(浸水害)警報 解除
	23:18	○ 洪水警報 解除
	6:50	○ 土砂災害警戒情報 解除
	7:20	○ 大雨(土砂災害)警報 解除
	7:55~	○ 防災航空隊ヘリにより孤立地区から合計9名を救出(~10:35)
30日	8:00	○ 自衛隊、消防、警察が孤立地区へ向けて出発(現地対策本部から)
	11:50	○ 気象台より情報提供「30日未明~6時まで津和野町に同じような雨雲が入る予想」
	14:35	○ 鳥取県防災ヘリ 要救助者5名を救助(~15:45)
	16:40	○ 第3回鳥根県災害対策本部会議 開催
	7:30	○ 自衛隊部隊 行方不明者の捜索開始
	8:34	○ 大雨(浸水害)、洪水警報 発表
	12:00	○ 自衛隊、津和野土木による孤立地区道路啓開の開始
	13:45	○ 大雨(浸水害)、洪水警報 解除
13:00~	○ 広島市防災ヘリにより11名救助(~15:00)	
16:30	○ 第4回鳥根県災害対策本部会議 開催	
18:25	○ 名賀トンネルまで開通(徳次地区は車両通行可能)	

訓練時に使用された時間経過資料



## ②津和野町で行われた対策

### i) 迅速かつ的確な住民への情報伝達

危機管理室を設置し、気象情報等の収集・分析、防災関係機関との連携、住民への情報伝達などを強化

### ii) 情報伝達の多重化

衛星携帯電話、防災行政無線システムの整備（町内24か所に屋外拡声子局を設置、町内各家庭や事業所、公共施設などに個別受信機を設置）

### iii) 地域の防災リーダーの育成

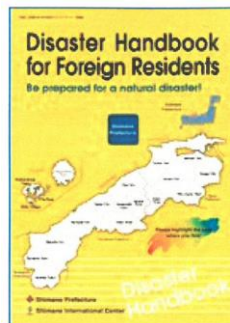
災害時は、自主防災組織の役割が重要  
組織の中心となる防災リーダーの育成が必要となることから、防災士資格取得の助成制度を創設

## (3) 外国人住民への支援

### ①外国人住民のための防災ハンドブック



やさしい日本語で作成



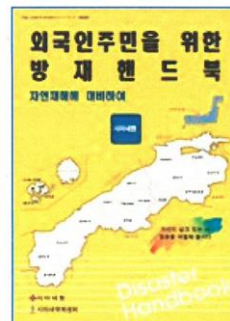
英語



中国語



ポルトガル語



韓国語



タガログ語

日本語のほか、5カ国語の防災ハンドブックを作成

### ②災害時外国人サポーター

大規模災害時に、被災した外国人の支援を行うボランティア

**増加する外国人が災害時に迷わず行動できるよう支援**

# 4 住民同士の助け合い、支え合いに向けて

## (1) 地域の絆を強くすること

- ・ 自主防災組織の取組

<sup>いまふく</sup>  
【浜田市今福地区の事例】 (H25～)

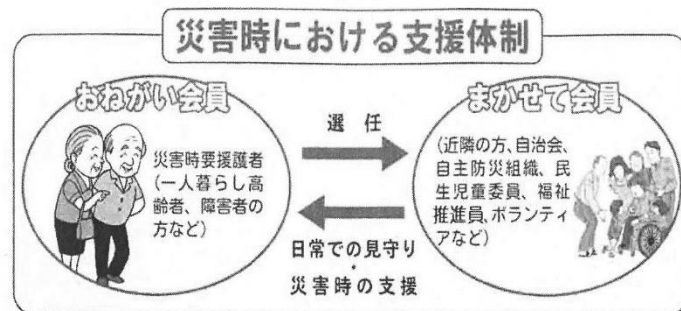
「支えあう、いま・福のある里づくり」を地域づくりのスローガンに掲げ、自主防災組織の立ち上げに向けた取組を実施  
中山間地域研究センターと連携し、GISを利用した集落の防災マップを作成  
H25・7月の大雨の記録を残し、今後の活動に活かす  
(H26.11.22自主防災組織設立)

- ・ 地域の課題の解決に向けたモデル公民館を支援する取組[県] (H19～)

<sup>ほつき</sup>  
【松江市法吉公民館の事例】

災害時、お互いに支え合う仕組みづくりを構築

この取組により、多くの人々のつながりが生まれ、おねがい会員を日頃から見守る関係も築けた



## (2) 災害の教訓を後世に伝えること

- ・過去の災害の経験が避難につながった  
(昭和58年災害の教訓が昨年7月の豪雨の際の避難行動に活かした)

昭和58年の豪雨で自宅が2階まで浸水した体験を教訓に、  
日ごろから用水路の水位を降雨量の目印として三隅川の  
氾濫を警戒

7月5日の豪雨でも、激しく増減する用水路の水位にただ  
ならぬ異常を感じ、素早く避難した

という例も報告された

- ・災害を経験した人としていない人との危機意識の差をどう埋めるか  
(自主防災組織の設立を進め、研修、訓練を積み重ねることが大事)

[県]島根県自主防災組織リーダー研修会 (H22~)

- ・これまでに、485名のリーダーが参加
- ・参加者が高齢化、若いリーダーの養成が課題



- ・ 日頃からもしもの時に備える  
(いざというときのための訓練の重要性)

平成29年10月20日、21日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練（島根県）

消防車両150台、約900名の隊員が参加し、安来市を震源とした大規模地震や水害の発生を想定して、実践に即した訓練を実施（島根県総合防災訓練 同時開催）

※緊急消防援助隊 … 阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、平成7年度に創設



土石流生き埋め者救出訓練の様子



堤防決壊逃げ遅れ者救出訓練の様子